

キャベツのコナガに対する主要な薬剤

この表は、令和8年1月6日時点でキャベツのコナガに登録のある薬剤について、県内出荷数量を考慮し抜粋した。また、「日本における農業用殺虫剤の作用機構」を参考に、主要グループ及びサブグループに薬剤を分類した。

コナガなどの薬剤感受性が低下しやすい害虫には、サブグループが同一の薬剤の連用は避ける。

また、薬剤の感受性については、現在までの薬剤の使用履歴、薬剤の散布方法、病害虫の発生状況、気象条件などにより、ほ場によって大きく変わる。よって、表中の感受性低下の事例は目安として、現地ほ場においては、薬剤散布後に効果の有無を確認する。

なお、薬剤の使用に当たっては、農薬のラベルを必ず確認する。

主要グループ	サブグループあるいは代表的有効成分	有効成分	薬剤名（例）	感受性低下の事例（注1）
1	1 A カーバメート系	メソミル	ランネート 45DF	・他県であり ^{2) 4)}
	1 B 有機リン系	PAP	エルサン乳剤	—
		アセフェート	オルトラン水和剤	・他県であり ^{2) 4)}
3	3 A ピレスロイド系 ピレトリン系	エトフェンプロックス	トレボン乳剤	・他県であり ^{2) 3) 4) 5)}
		ペルメトリン	アディオオン乳剤	—
4	4 A ネオニコチノイド系	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	・県内であり ・他県であり ²⁾
		ジノテフラン	スタークル顆粒水溶剤	—
	4 E メソイオン系	ジクロロメゾチアズ	フィールドマストフロアブル	—
5	スピノシン系	スピネトラム	ディアナSC	
		スピノサド	スピノエース顆粒水和剤	
6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	エマメクチン安息香酸塩	アフアーム乳剤	・他県であり ³⁾
		レピメクチン	アニキ乳剤	・他県であり ³⁾
11	11 A <i>Bacillus thuringiensis</i> と殺虫タンパク質生産物	<i>B. t. subsp. aizawai</i>	ゼンターリ顆粒水和剤	
		<i>B. t. subsp. kurstaki</i>	チューンアップ顆粒水和剤	—
			デルフィン顆粒水和剤	
		<i>B. t. subsp. aizawai</i> <i>B. t. subsp. kurstaki</i>	バシレックス水和剤	
13	ピロール	クロルフェナピル	コテツフロアブル	・他県であり ^{3) 5)}
14	ネライストキシン類縁体	カルタップ	パダンSG水溶剤	・県内であり ・他県であり ^{3) 5)}
		チオシクラム	リーフガード顆粒水和剤	・他県であり ⁵⁾

主要グループ	サブグループあるいは代表的有効成分	有効成分	薬剤名（例）	感受性低下の事例（注1）
15	ベンゾイル尿素系	フルフェノクスロン	カスケード乳剤	・県内であり ・他県であり ^{1) 3) 4) 5)}
		ルフェヌロン	マッチ乳剤	・他県であり ^{3) 5)}
		テフルベンズロン	ノーモルト乳剤	・他県であり ^{2) 3) 5)}
18	ジアシル-ヒドラジン系	メトキシフェノジド	ファルコンフロアブル	—
21	21A METI剤	トルフェンピラド	ハチハチ乳剤 ハチハチフロアブル	・他県であり ^{2) 3) 4) 5)}
22 (注2)	22A オキサジアジン	インドキサカルブ	トルネードエースDF	・他県であり ^{3) 4)}
	22B セミカルバゾン	メタフルミゾン	アクセルフロアブル	・県内であり ・他県であり ^{3) 5)}
23	テトロン酸及び テトラミン酸誘導体	スピロテトラマト	モベントフロアブル	—
28	ジアミド系	シアントラニプロール	ベネビアOD	・他県であり ^{3) 5)}
		クロラントラニプロール	プレバソンフロアブル5	・県内であり ・他県であり ^{1) 2) 3) 4) 5)}
		フルベンジアミド	フェニックス顆粒水和剤	・県内であり ・他県であり ^{1) 2) 3) 4) 5)}
		テトラニプロール	ヨーバルフロアブル	—
30	メタジアミド系 イソオキサゾリン系	フルキサメタミド	グレーシア乳剤	—
		プロフラニリド	プロフレアSC	—
UN (注3)	ピリダリル	ピリダリル	プレオフロアブル	・県内であり ・他県であり ²⁾
— (注4)	Qi阻害剤	フロメトキン	ファインセーブフロアブル	—
	—	ボーベリア バシアーナ	ボタニガードES	—

(注1) 平成29年度の県内調査又は参考資料において、処理3日又は4日後の補正死虫率が70%未満の地点を確認した薬剤は、感受性低下の事例ありとした。なお、県内調査による場合は「県内であり」、参考資料による場合は「他県であり」として参考資料の番号を記載した。また、県内及び参考資料内で調査していない薬剤については、「—」と記載した。

(注2) 22Aと22Bの化合物は同一の標的部位に作用すると考えられるが、最近の知見では代謝分解に基づくサブグループ間での交差抵抗性のリスクは低いと示唆されている。

(注3) 「UN」は、作用機構が不明あるいは不明確な剤

(注4) 「—」は、Crop Life Internationalの対策委員会で認定されていない有効成分

参考資料

- 1) 平成27年度病害虫発生調査速報第12号コナガの薬剤感受性検定（結果の速報）（香川県）
- 2) 平成26年度病害虫発生調査速報第12号コナガの薬剤感受性検定（結果の速報）（香川県）
- 3) 病害虫防除技術情報（第6号）アブラナ科害虫コナガのジアミド系殺虫剤の感受性低下及び薬剤感受性の検定結果について（愛媛県 平成28年度）
- 4) 平成26年度技術情報第5号（コナガに対する薬剤効果試験）について（鹿児島県）
- 5) 病害虫防除技術情報（第6号）アブラナ科害虫コナガの薬剤感受性の検定結果について（愛媛県 平成30年度）